

2018年11月28日 第254号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

3000万人署名

さらに **631,214** 人分を国会に提出 (11/28)

署名の力で、憲法審査会を開かせない！



11月28日昼、国民大運動実行委員などによる定例国会行動が行われ、250人が参加しました。憲法共同センターは3000万人署名提出行動日と位置づけ、468,967人分を提出。市民アクション162,247人分と合わせ631,214人分を提出しました。代表して新婦人の笠井会長が日本共産党の仁比聡平参院議員に署名を手渡しました。安倍改憲をストップさせる、安倍政権を退陣に追い込むため、ともにたたかっていく決意を固めました。

意を固めました。

主催者あいさつを全労連の小田川議長が行いました。27日に衆議院で採決が強行された入管法案についてふれ、「技能実習生は、ピンハネ労働、タコ部屋、長時間労働で『蟹工船』のように働かされている。こうしたことを改善せずさらに外国人労働者を受け入れようとしており、安価な労働力としかみていない。こうしたことが足かせとなって下請けたたきにもつながる」と指摘。「民主主義がないがしろにされているもと、3000万人署名の対話で政治の危機を広め、安倍政権を1日も早く終わらせよう」と呼びかけました。

憲法共同センターを代表し全労連の長尾副議長が決意表明。「憲法審査会を開かせていないのは、野党の共闘の力と3000万人署名の力。新婦人では憲法紙芝居で対話をしながら署名を集めている。6割の国民が改憲を急ぐ必要はないと思っている。国民が望んでいるのは、社会保障や景気対策。『改憲より暮らしを守れ』が国民の声」と指摘。「改憲を断念させるため3000万人署名を続けよう。子どもや孫のために、負けられないたたかい。ともにがんばろう」と訴えました。